マッサージ（SSL）

彩月絢芽

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
マッサージ（ＳＳＬ）

【Ｎコード】
Ｎ０４７０Ｙ

【作者名】
彩月絢芽

【あらすじ】
沖斎のＳＳＬ設定（既に恋人同士）です。
斎藤さん視点。
タイトルそのまま？の内容です・・・。

（前書き）

薄桜鬼のアプリをついにゲットした嬉しさの余り、
初めて二次創作書きました！
よろしくお願いします。
沖斎です。
今回は斎藤さん視点。

「一くん、まだ寝ないの？」

パジャマ姿の総司が声をかけてきた。両親が旅行に行って留守なので、うちに泊まりにきたのだ。

先に風呂に入ってもらって、俺は自分の部屋で次回の委員会の資料作成をしていた。

「すまんが、今日中にこれを終わらせてしまいたい。そうでないと落ち着いて週末を迎えられんからな」

「えー、そんなの、一くんなら直前でも大丈夫だよ。ていうか、一くんはそんなに真面目で肩凝らない？マッサージしてあげようか」

総司が椅子に座っている俺の肩を揉み始めた。

俺よりも長身で力も強い総司。

「総司、ちょ、ちょっと痛いぞ」

「一くんが肩に力入りすぎてるんだよ。もっと力抜いて」

「そう言われても、そんなに強く揉まれては逆に構えてしまうだろ

う」

「えー、しょうがないなあ。じゃあ、ちょっとこっちまで来てよ」

総司がベッドの下に敷いた布団、俺が寝るつもりだった場所に胡座をかいて俺を呼ぶ。

「じゃあ、痛くないマッサージしてあげる。僕の足のとこに頭乗せて、寝っ転がって」

「・・・こ、こうか？」

「そうそう」

総司の足下に仰向けになると、まだ髪の濡れている総司が覗き込んできた。

風呂上がりのボディーシャンプーの匂いが鼻をくすぐる。

にやりと笑うので、ちょっと警戒したが、やはり間もなく総司は覆いかぶさってきた。

「んっ・・・ふぅ・・・」

啄むような柔らかいキスを何度もされて、俺の身体は已む無く弛緩してしまう。

「ちょっ・・・そうじ、やめ、んん・・・」

「ほらねー、これで力抜けるでしょ？」

そう云いながら総司が首や肩を揉むと、確かに先ほどよりは痛みを感じない。

しかし総司は俺が抵抗できなくなるのをいいことに、俺の胸元にまで手を伸ばしてきた。

指先で服の上から先端をなぞってくる。

「やっ・・・そこはちが・・・」

「んー？でも気持ちいいでしょ？」

「マッ、サージじゃ、なかっ・・・」

その間にも総司はキスを止めない。

先端が敏感にも突起して、俺は総司のされるがままになっていた。

開かれた口から舌先が侵入してくる。

「髪、乾かせ・・・風邪ひく、ぞ・・・」

「一くんがあたためてくれない？それとも、あとで一緒に入る？お風呂」

マッサージはただの口実だったのか・・・と思ったがその時は既に遅かった。

（後書き）

後は想像でお楽しみください。

フィクションなのですが、実は実話です（爆

総司さんって絶対いつもセクハラしてそうですよね～w

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n0470y/

マッサージ（SSL）

2011年11月16日16時33分発行